

筑波大学 社会・国際学群 社会学類

平成30年度 帰国生徒特別入試
(10月入学)

小論文試験

(注意事項)

- ・ 問題冊子1部、解答用紙2枚（マス目1枚、横罫線1枚）が配られているか、確認してください。
- ・ 解答用紙の所定欄に、学群、学類、氏名、受験番号を記入してください。これらが正しく記入されていない答案は、採点できないことがあります。
- ・ 解答用紙は、下書き用紙をはずして使用してください。日本語の解答はマス目の用紙に、英語の解答は横罫線の用紙に解答してください。下書き用紙は回収しませんので、自由に使って結構です。

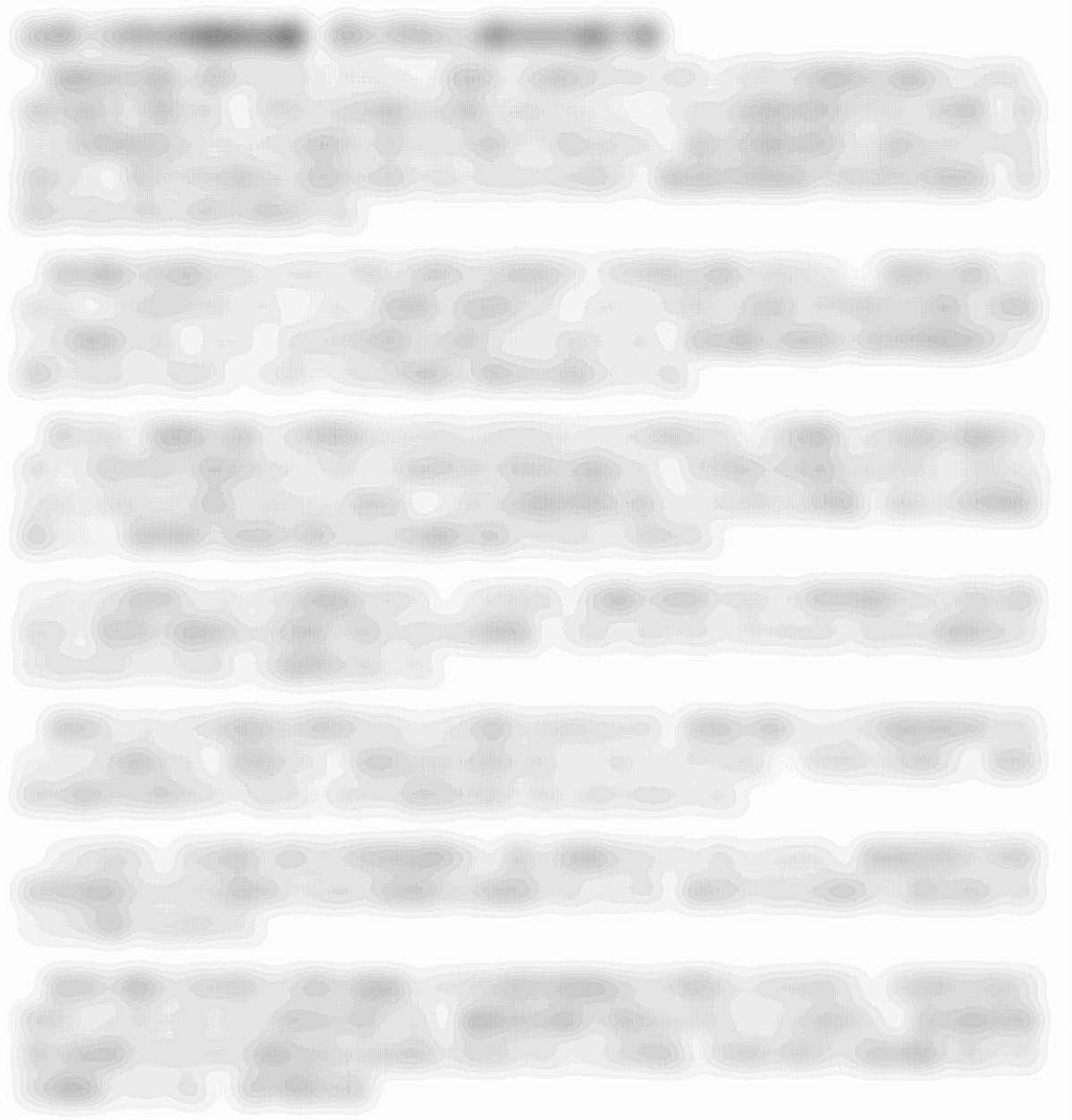
以下の設問に、日本語（600 字以内）および英語で、それぞれ解答しなさい。なお、日本語・英語はそれぞれが逐語訳でなくてもよい。

【問題】

近年、中高生の運動部の活動について、今年 3 月スポーツ庁がガイドラインを発表するなど、長時間化・過熱化の傾向に歯止めをかける必要性が指摘されているが、それに対しての反対の声も根強い。次ページの新聞記事を参考にし、また、あなたが高校時に在籍していた国や地域での中高生のスポーツ活動と比較しながら、運動部の活動時間の規制について、複数の論点から論じなさい。

中学、休養日を週2日以上 平日1日2時間程度

毎日新聞 2018年1月16日 19時35分(最終更新 1月16日 22時20分)



運動部活動ガイドラインの骨子の概要

- ・ 休養日は週2日以上で、平日は1日以上、土日で1日以上
- ・ 夏休みなど長期休業中は部活動も長期の休養日を設ける
- ・ 1日の活動時間は平日2時間、休日3時間程度
- ・ 科学的トレーニングを導入し、短期間で効果が得られる活動にする
- ・ スポーツクラブなどと連携し、地域のスポーツ環境整備を進める
- ・ 大会の統廃合を進め、学校が参加する大会数の上限を定める